

熊本県建築士会人吉支部から

建築士くまもと



No. 103



山口 義之

■熊本県建築士会人吉支部 青年委員

人吉球磨世間遺産について

『世間遺産』とは

「世間遺産（せけんいさん）」とは、人類共通の遺産である「世界遺産」に対し、身の回りの残していきたい建造物や風景、習俗などを指す造語です。

人吉球磨世間遺産について

人吉球磨地域は熊本県最南端に位置し、九州山地に囲まれた人吉盆地の中に1市4町村で構成されています。

鎌倉時代初期から明治廃藩置県まで、相良氏が統治した歴史から国宝に指定された青井阿蘇神社を始め、中世から近世に造られた社寺建築が多く残る人吉球磨は「文化財の宝庫」と言われていますが、文化財に指定されている建造物はごく一部で、価値があるのに未指定の建造物がまだ多く残っています。また、産業建築や宗教の自由化・西洋化を採り入れた建物など庶民の営みを物語る遺産も数多く残っており、歴史の橋渡しの役目を果たしてくれています。

しかし、価値があるにも関わら

ず正當に評価されていないのが現状で、保存活用には多くの課題があります。



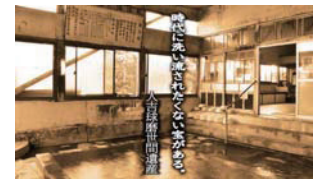
建築士会人吉支部では、3か年度に渡って管内の近代建築物を調査し、106棟の調査リストを作成しました。これらの建築資源は恒久的な保存策が望まれますが、多くの時間を要します。

そこで地元建築士による暫定的な価値付けを行い、「人吉球磨世間遺産」という独自の認定・登録制度を創設し、身近な地域資源の価値を所有者や地域全体で共有を図るためにパンフレットやステッカーを作成しました。パンフレットは継続的な発行を前提として毎回テーマを絞り込むこととしました。その第一弾として「人吉市の木造公衆浴場」をテーマに選びました。



温泉街としても知られる人吉市には、現在11軒の公衆浴場があります。パンフレットでは、大正から昭和初期に建てられた木造公衆浴場5棟と関連施設1棟を紹介しています。これら公衆浴場の特徴として、平面構成を3間×3間

の男女左右対称とし、木造トラスで大空間を支える構造や湯気抜きの越屋根・ドーマー、前面に奥行き1間の下屋を設けた出入口など、開放的な銭湯の特徴を良く残しています。一方で、各温泉で異なる浴槽の形状や湯口等の細部意匠は個性的で、そこが見所の一つとなっています。建築士会としては木造公衆浴場に「人吉球磨世間遺産」という新しい位置付けを行うことで、微力ながら利用客の増加や存続への一助となればと期待しております。



今後の展望としまして、「世間遺産」の認定・登録を進め、国有形文化財化による恒久的保存やパンフレットの継続発行による地域振興への活用を図り、各機関と連携して保存改修へ向けた地域産業の創出に繋がっていきたいと考えます。具体的には、平成23年度から養成しているヘリテージマネージャーや行政との官民連携はもちろん、所有者や職人、学生や学術機関との出前講座、現場研修を行い保存改修にむけた具体的な取り組みを進めていきたいと考えます。

最後に、人吉へお越しの際は、ぜひ公衆浴場へお立ち寄りいただき、歴史を感じてみてください。



甲斐 健一

■青年部会長

パッションからつながる kizuna 宮崎－青島フェス－ について

平成26年度熊本県建築士会青年部会長を務めさせて頂いております甲斐と申します。

今回原稿依頼を受けまして平成26年11月15日に開催されましたパッションからつながるkizuna宮崎－青島フェス－とパッションについて、紹介致します。

現在はパッションからつながるkizunaとなっており、以前からご存知の方は今までのパッションではないのですかと聞かれることがあります。

そもそもパッションとは？からちょっと説明します。

パッションは平成3年に熊本阿蘇にてスタートした熱く語り合う集いとして始まり、第19回の平成24年熊本山鹿を最後に九州ブロックの予算削減の流れから公認ではない催しとなっております。よって現在は予算については参加費の

みで運営されており、このパッションがなくなれば、九州での集まりは、年一回の「つどい」のみとなることから、毎年志願した県にて予算が無い中、第1回から受け継ぐ精神である「九州は一つ」の元に知恵を出し合いながら開催されております。

第1回の阿蘇では全然肩に力を入れないということで受付した瞬間に渡された缶ビールを飲みながら、その当時熊本が頑張っていた通学路を通して町を作っていこうという試みについて、みんなで意見を述べあるいは、自分たちの地域で頑張っていることを語り合う会だったそうです。(宮崎県建築士会松竹会長にお聞きしました。)

この流れを受け継いだ今回の宮崎です。詳しくは宮崎と熊本のフェイスブックに載っておりますので是非覗いてみて下さい。

各分科会とも魅力たっぷりで、青島神話体験型フォトラリー、美しい加江田溪谷沿いをハイキングし最後に宝探し、丘の上にあり雄大な景色をバックにゴルフ、サーフィン体験、わきあいあいのパークゴルフ、次の日は早朝青島海岸にてランニングとサイクリングと盛り沢山でした。低予算の中それぞれ楽しい工夫がありました。各分科会、先輩方提案先行でどんどん分科会が決まったとのことで諸

先輩方のパワー溢れる集いでした。

わたくしはハイキング、ランニング、サイクリングと運動の部の参加としました。ハイキングでは沖縄県会長と、ランニングとサイクリングでは宮崎県会長と語り合うことができ、先輩方の歴史と情熱に感銘を受けた二日間でした。

非公式といっても参加者は144名でした。懇親会では先輩方の同窓会のような一面もあり、是非皆さん肩の力を抜いてご参加頂き一緒に熱く語り合い益々盛り上げていきましょう。



サイクリング風景(中央は宮崎県会長)

最後に少し宣伝を！

今年も来年も若手建築士の為の各種セミナーと現場見学会等を企画しております。毎回大変好評で、若手対象としておりますが、先輩方も多数参加されております。

ご興味がある方は是非ご参加の程宜しくお願い致します。



青年部会

フェイスブックの
QRコードです！

TOPICS 情報

平成27年度 第64回 通常総会開催のお知らせ

平成27年6月19日(金)メルパルク熊本にて通常総会開催予定です。



持田 美沙子

■女性部会長

女性の視点からの活動として
女性部会活動報告

部会長となり早3年が過ぎようとしております。低迷する活動の中、女性部会の意義を再確認。発足当初から基本方針は、『「いつでも、誰でも、気軽に」をモットーに、全員が参加できる部会活動の推進すること』としております。

さて、その基本方針は崩さずに、参加できない人にも女性部会の活動をお届けするという活動を追加し、Facebookでの情報発信、かわら版での活動報告を始めました。

Facebookでは、日々の気づきや活動の報告をタイムリーにアップ、かわら版では活動をコンパクトに

まとめ、季刊誌として発行します。



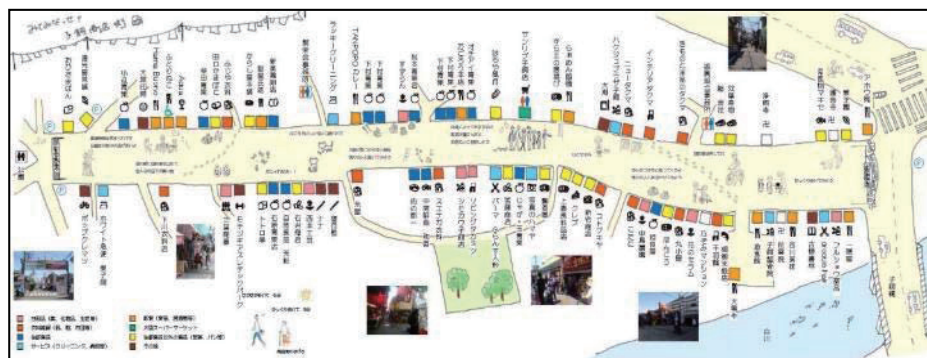
▲女性部会 FB の QR コード

▼かわら版第一号



また、昨年度より「くまもと地域貢献活動センター地域貢献活動基金助成」を受け、「地域スケール（特性）発見による地域の活性化」という事業に関わっております。この活動では、子飼商店街を事例とし、熊本大学の学生、バリアフリーデザイン研究会、UDくまもと等他団体の方々と協力し、昨年度はUDに配慮した商店街のマップを作成しました。今年度は商店街の店主の方々から、空き店舗を活用した地域の活性化の相談を受け、調査活動を進めております。

▼作成した子飼商店街マップ



女性同士の情報交換も重要と考えており、毎年、総会時に茶話会を開催しておりますが、今年度は古民家の見学会もかねて甲佐にある「山ぼうしの樹」でも茶話会を開催しました。子どもを連れて参加できる会は女性部会ならではの学びの多い茶話会でした。



福島で開催された全国大会にも参加し、東北の建築士会の方々と親交を深め、来年度は東北への訪問の検討をお約束しました。

毎月1回、第四土曜日に開催している「住まいづくり相談会」も、今後、活性化を考えております。

基本方針を忘れずに、しかし、多様化する女性の働き方にも対応できる部会となるように活動を組み立ててまいりたいと思いますので女性の皆様是非ご参加ください。

おもしろいは建築史のはじまり

熊本大学教授 伊東龍一

これまで江戸時代の建築について「彫物」や「指図」に注目してお話をさせていただいてきた。今回はそんな勝手なお話も最終回である。

2つの建物のお話をしたい。1つ目は明治時代の宗教建築である。屋根の形や建物のプロポーションが絶妙であるなどというのではない。細部の意匠が優れる、彫物がたくさんついているなどというのでもない。今のところ想像に過ぎないが、この建物にたくさんの人が集まってきた手を合わせている姿がみえるようなのだ。とんでもない間違った推論で仮説にもなっていない。怪しいがおもしろい。

■僧・天瑞の信仰のかたち

建物はあさぎり町にある皇大神宮である。この地方に限らず、神社やお堂には小規模なものが多い。地図にも載っていないものが当たり前である。地元の教育委員会の方に先導してもらって現場に向かった。

建物は小さな集落の隅にあった。建物の後方は開けていて、遠くの山までが見渡せる。手前は集落である。集落の側からみると石造の鳥居がある。確かに神社のようである。皇大神宮というから、アマテラスが祭神であろう。伊勢神宮の内宮の神様だ。

子供のときに読んだ日本神話によれば、アマテラスは女神である。弟にはスサノオがいる。スサノオは後にヤマタノオロチを退治する英雄でもある。

スサノオがあまりに乱暴なので、アマテラス

は天の岩戸の中に隠れ、岩戸を閉ざしてしまう。すると世の中は真っ暗闇になり、悪い病気も流行る。困り果てた神々は、アマテラスを外へでもらう手立てを考える。オモイカネノカミが考えたのは、岩戸の前で、皆で楽しくドンチャン騒ぐ。とくにアメノウズメノミコトには肌も露わな格好で踊ってもらう。外はできるだけ明るくして鶏にコケコッコと鳴いてもらう。アマテラスが、じぶんがいなくて困っているはずなのに外は随分楽しそうだ、おかしい、と思わせ、彼女が様子をうかがおうとして戸を少し開けるだろう。その少し開いた岩戸を強力のタヂカラオノミコトが開けて、アマテラスにお出ましくいただくという策であった。

アマテラスをお祀りしているはずの建物をみてみよう。鳥居の向こうには入母屋造、棧瓦葺の建物がある。特別大きくもない。また神社らしさを特徴づける屋根の千木や鯉木もない。小さなお堂といった外観である。

中をのぞくと、内部は格子戸で前後に2つに分かれている。手前は広い板敷の部屋、外陣といつてよいだろう。奥が奥行きの狭いいわば内陣で床も一段高く、神棚がある。神棚といったが、中央に安置されているのは頭上に塔を戴いた神像である。後で調べて分かったが、この像は雨宝童子像であるらしい。アマテラスと雨宝童子は神仏習合時代の近世にあつては同体とみられていたようである。

さて、外へ出て堂をぐると回ると背後にはコンクリートブロックで区画された中に小さな石祠があることに気付いた。石祠の前にも小さな鳥居がある。石祠の正面には「皇大神宮」の



皇大神宮の正面 背後には東の空



皇大神宮の背面 高い位置に窓、左に石祠

文字が刻されている。そうすると、この石祠こそが、いわば神社の本殿に相当するもので、堂は拝殿なのだろうと思われてきた。しかし、堂の背面に回って気づいたことがもう一つある。堂の背面の中央上部に両側に引き分ける板戸が付いている。拝殿であるならば堂の内部から板戸を開けて、本殿である石祠を拝礼したに違いない。そう思った。間違いないと思って、もう一度、堂の内部に入って予想が外れたことに気づいた。窓は雨宝童子が安置される神棚よりも上にある。窓をあけても神棚よりもずっと下にある石祠は見えない。

建物の建てられたのは、明治36年(1903)である。棟札が残されていて、建物自身からみてもこのときに建てられたと考えて良さそうなのだ。棟札には堂に関する由緒も記されている。最初に皇大神宮を建てたのは天瑞という僧であった。天瑞(1627~1688)はこの地方にゆかりの禅僧で、東林寺などの数々の寺院を創立したことでも知られる僧であった。しかし、その信仰と建物との関係は不明である。また、現存する皇大神宮は、明治の建築であるから、天瑞が存命中の建築でもないのである。

大学に戻ってきてから学生諸君に図面を描いてもらった。それらの図を使って調査の報告会をした。いよいよ報告をはじめようとしたとき、堂は正面が真西を向き、背面は真東向きだと気が付いた。学生諸君は配置図を描いてはくれるが、方位を調べて記入することを忘れがちだったので、それだけは私が方位磁石で調べておいたのだ。それが良かったのだろう。

皇大神宮の背面の板戸を開くと雨宝童子像の後ろに東の空が広がる。石祠は見えない。しかし、あるときにその背後に太陽が昇る。朝日だ。雨宝童子像から発せられる後光のように光輝く。アマテラスが岩戸に隠れたときにこの世は暗闇になったことに表現されているように、アマテラスは太陽神でもある。雨宝童子に重なった東の空に昇る朝日に手を合わせる。そのような信仰の姿があったのではないか。

推論に過ぎない。限りなく妄想に近い。しかし、今の建物が、天瑞が直接かかわって建立さ

れた建物の最も本質的な部分を受け継いでいる可能性はあるだろう。だから、明治の棟札にも天瑞の名前を記しているのだ。

■明治時代の陸橋

今それはない。家のそばに石碑だけがある。明治33年に(1900)建てられたことがその刻銘から判明する。石碑の東面に「健軍橋陸橋」とある。北面にも次のようにある。

明治三拾三年旧木山県道健軍橋 幅六米四〇
長サ八米 高サ三米五〇 昭和三拾三年三月
道路改修

ここに健軍橋陸橋という橋があったのだ。想像もつかない。明治33年に造られたが、昭和33年に「道路改修」された。「改修」とあるが、このときに取り壊されたのであろう。陸橋とはどのようなものであろうか。石碑南面には「のら戻り、このはし下を馬に乗り」と刻されている。のんびりした夕暮れの田園風景の中に、この橋の姿が浮かび上がる。橋の下を馬に乗ってくぐるとあるから橋の下は川ではない。人馬が通る陸橋だ。しかし、なぜそのような陸橋が必要であったのか。今のところわからない。まだ、しらべてもない。調べれば簡単にわかるかもしれない。しかし、おもしろい。

それにしても酷いものだ。石碑の横には、ほとんど接するように電信柱が立っている。石碑に対する配慮はまったくない。

皇大神宮も健軍橋陸橋も、誰もが「優れた」とか「すばらしい」といった形容を認めるような建物ではない。後者は建物もすでにない。しかし、文句なしに、おもしろい。いつも建築史の最初には「おもしろい」がある。

健軍橋陸橋の 石碑

左隣は電信柱
右隣は？！





山川 満清

■まちづくり委員会 委員長

ヘリテージマネージャーのご紹介

1. ヘリテージマネージャーとは

地域固有の歴史的風致を形成する歴史的文化遺産を見出し、その価値を適正に評価し、保全・活用のマネジメントを行い、良好な地域づくりに貢献することのできる能力をもつ専門家のこと。

2. ヘリテージマネージャー誕生の背景

ヘリテージマネージャー制度は阪神・淡路大震災により被災した身近な歴史文化遺産の復旧支援に際し、その保全・活用の道筋がつけられず喪失を余儀なくされ、その大きな要因としてマンパワーの不足を痛感した兵庫県教育委員会が「歴史文化遺産保全活用推進員（ヘリテージマネージャー）」の養成を平成13年度（2002年1月）から開始したのが始まりです。そしてこの震災を機に発足した国の「文化財登録制度」の担い手の確保がヘリテージマネージャーの誕

生の直接的な背景といえます。

また、折しも社会の動向も地球環境問題の解決への糸口を探るために循環型社会へ、スクラップアンドビルドの時代からストックの活用時代へ向かおうとしておりました。さらに地域固有の歴史的風致の維持向上のための取り組みが全国で始まっていた。

また、公益法人化による社会貢献活動の強化により社会的信頼性の獲得をめざす建築士会は建築士の新たな貢献の場を模索していました。

3. ヘリテージマネージャーの養成

養成のための講習会はまちづくり委員会が主管し、受講対象は社会的に専門家としての素養と技能を認められた建築士とし、講習会運営上、募集定員を30名としました。

日程は建築士が仕事の合間に受講することを考慮し、隔週の土曜日の午後半日、8月から翌年2月まで14回行います。

講習内容はヘリテージマネジメントの基礎知識、調査手法、修復技法、景観、防災及びまちづくり関連の講義で32時間と指定文化財現場研修、調査実習、まちづくり実習で26時間、その他ガイダンスや討論を加え計60時間の内容です。これを全て履修の上、申請することで建築士会にヘリテージマ

ネージャーとして登録されます。

講師は学会や行政の推薦を受け、講習会運営委員会で選定します。

熊本県の養成の実績はこれまで平成23年度から始まり、25年度3期まで、83名が受講し、現在62名が登録されています。なお登録者のリストは建築士会のHPにアップされています。



4. ヘリテージマネージャーの活動

活動は主に次の3つです。①発見：地元での日常的な発見・調査活動。見学会や勉強会の開催等地域ぐるみでの情報共有。②保全：日常の見守り・調査票（カルテ）の更新。修繕の助言。耐震対策・防災訓練。文化財登録協力。行政との協働③活用：活用提言。まちづくりへの参画。行政との協働。

これまで取り組んできた活動の主なものを以下にあげます。

1) 平成24年度国交省「歴史的風致維持向上推進等調査事業」による「歴史的建造物の被災調査・復旧支援のしくみづくり」

これは熊本県建築士会が主管し九州ブロック建築士会で連携して広域災害時に被災した歴史的建造

TOPICS情報

韓国 慶尚南道建築士会訪問のお知らせ

平成27年4月16日(木)～18日(土)に慶南士会訪問を予定しています。

物の調査・復旧の支援体制づくりを検討し、支援方法のマニュアル化と九州ブロックの建築士会間で支援協定締結、九州全域でヘリテージマネージャーの養成開始、災害時支援の模擬訓練の継続という成果を上げています。



2) 平成 25 年度文化庁「NPO 等による文化財建造物の管理活用事業」による「組織間連携と支援ネットワーク構築による文化財保護の新たな体制づくり」

これは歴史的建造物の保全活用にはその把握と、情報共有が欠かせませんが、そのためにはヘリテージマネージャーと行政そして所有者との緊密な連携が必要となります。この 3 者連携づくりを目的に、県内 3 地域で出前講座と現地調査の 2 つのプログラムに取り組みました。ここでの所有者の参画が「所有者の集い」という形に結実したことは大きな成果でした。この他、文化庁からの委託で国指定重要文化財耐震予備診断を行いました。また県下市町村からの様々な相談に応じています。



5. ヘリテージマネージャーの現状

ヘリテージマネージャー養成の動きは全国的なものに発展しており、すでに 30 の県で始められ、講習会修了者の数は 2 千名を超えています。これを受け 1 昨年 2012 年に全国ヘリテージマネージャー協議会が発足してネットワークづくりが始まりました。九州でも沖縄を除く県でヘリテージマネージャーが誕生しており、広域災害への備えなど広域連携の基盤づくりへの寄与が期待されています。

6. ヘリテージマネージャーの課題

新しい取り組みであり課題は山積しています。例えば参加(受講)希望者の低迷が問題です。本年度 4 期目の講習会受講応募者数が 1 桁となり、開講を延期せざるをえませんでした。熊本県の文化遺産の量からすればヘリテージマネージャー志願者数は 100 名もいないと予見する人がいましたが、寂しいことです。ヘリテージマネージャーは地域の守り人、各地域に最少 2 チーム 6 名はほしいところです。さらに参加率や世代交代も考慮し

なければなりません。ヘリテージマネージャーになる動機は、業務拡大の期待、社会貢献目的、知的探求等様々ですが、受講してみたいという魅力づくりと全履修できるかの不安、活動へ不安の解消が肝要でしょう。

次に実際の活動において日常業務の合間での活動となるため、参加できる人が限られてくるという問題があります。ヘリテージマネージャーへの需要は確実に増えているのに供給が不足しています。

また参加動機にも大きく影響してくるのが活動経費の問題です。活動は基本的には有償ボランティアで移動のガソリン代や作業経費はやはり必要です。この資金をどうするかが課題となります。

また、調査活動を行う場合、建物の所有者の信頼が必要ですが、これには行政との連携が欠かせません。日頃から情報・保全意識の共有を図っておきたいものです。

7. ヘリテージマネージャーの今後

地域に根付いた守り人をめざし、所有者と地域・行政との連携による信頼を築きましょう。地域文化の継承を専門家として支援できる能力の向上をはかりましょう。孤立と独善を排し、其々の個性を活かした連携によるネットワークづくりを共に始めましょう。

すべては、未来のために。



田口 太

■交流委員会

第38回親睦ソフトボール大会

2014. 11. 3 於: 菊池市泗水グランド

「**天気的神様ありがとうございます！**」

今回の大会は、第34回八代大会の時に優勝された菊池支部の皆様が前回、水俣大会の時に開催地表明をされ、今大会を迎えさせて頂きました。実は菊池支部の皆様が優勝された八代大会以来、昨年まで雨天にて中止が続き、4年振りのソフトボール大会となりました。

さて毎年恒例の前夜祭での親睦も楽しみの一つ、美酒が待つ会場では菊池支部の皆さんが新調されたお揃いのスタジアムジャンパーでお出迎えされ、参加会員の皆さんとも再会し、そしていよいよ乾杯！子供舞踊団花童(はなわらべ)の素晴らしい祝舞で盛り上がり、そしていつもの各支部紹介と決意表明、明日への闘志を沸き立たせながら皆さん美酒を酌み交わし意気揚々の中、前夜祭に幕

を閉じました。もう少し物足りない面々は、燃料補給に夜の菊池へ散策に出かけて行きました。

大会当日早朝、気になる空を見ると雲はあるものの晴れている！「**天気的神様ありがとうございます！**」と言う気持ちで会場へ、冷え込む朝にもかかわらず早朝から前夜の余韻を感じさせない菊池支部の皆さんが設営をほぼ終えられていました。

さあいよいよ4年ぶりのソフトボール大会、久しぶりに各チームが勢揃いし開会式、来賓の皆様による始球式を皮切りに熱戦の火蓋が落とされました。白熱する予選リーグでは好プレーお約束の珍プレーそして打撃戦等ある中、和気あいあいと熱戦が繰り広げられました。

ちなみに私はと言うと今回牛深支部チームとして予選リーグに参加しましたが、いい感じのチームワークで好ゲームが出来、牛深支部の皆さんと絆も深まり来年の再会を誓いました。



決勝トーナメントは、菊池、山鹿、上益城、八代の4支部が熱戦の末に勝ち上がり、山鹿vs上益城、菊池vs八代で準決勝が始

まりました。両試合とも白熱したプレーが行われ見事、菊池支部と山鹿支部の強豪チームが決勝に進みました。

決勝戦は、2連覇を狙う菊池支部が初回からリードした展開、5回表が終わった時点で13-8と菊池支部5点のリード、このまま終わるかと思われた5回裏の山鹿支部の攻撃、背水の陣で攻め続けた山鹿支部が5点の大差をひっくり返す大逆転のサヨナラ優勝を納められました。



4年振りの親睦ソフトボール大会は好プレー・珍プレーも有りながら白熱し、決勝戦では最後まで諦めない逆転劇など、凄く見応えのある素晴らしい大会となりました。

これも菊池支部長をはじめ支部の皆様の大変なご尽力と準備をして頂いた賜物であり、参加会員皆様方のご協力のお陰と思います。心より感謝申し上げます。

来年は、あらたま支部より開催を表明して頂きましたので、しっかり**天気的神様**にお願いし会員の皆様の熱き戦いを期待したいと思います。誠にありがとうございました。

編集委員会より

【建築士くまもと】の発行が遅れましたことをお詫びいたします。これから各支部・部会及び各委員会等の活動等をお伝えできるよう頑張っております。どうぞよろしくお願いいたします。

編集委員：藤本国範 堺武治 田尻昭久 田中章友 中島祥貴
原野真司 松村志磨子 宮本朋子